





令和 5 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一 宮 市 立 丹 陽 小 学 校	学校 No.	1 1
<p>↓</p> <p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>(1) 目標</p> <p>社会が互いに人と人との助け合いによって成り立っていることに気づかせたり、体験活動を通して、自分が社会の一員であることを自覚させたりする。また、自分に何ができるかを考えさせることで、よりよく生きようとする気持ちを育てる。</p> <p>(2) 計画と推進体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉実践教室【5年生：総合的な学習の時間】 ・赤い羽根共同募金などの募金活動【児童会】 <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1) 福祉実践教室</p> <p>5年生が「車いす」と「視覚障害者ガイドヘルプ」の体験を行った。「車いす体験」では車いすの扱い方や介助の仕方を学び、車いすに乗る役と介助役の両方を体験した。「視覚障害者ガイドヘルプ体験」では白杖の扱い方や介助の仕方を学び、視覚障害者役と介助役の二人一組で、障害物が置かれたコースを周るという体験を行った。どちらも相手を思いやった声掛けが大切であることを理解することができた。</p> <p>(2) 募金活動への参加</p> <p>児童会が中心となって、11月に赤い羽根共同募金に取り組んだ。児童集会で児童会のメンバーが活動内容を説明したり、児童会だよりやポスターで募金活動の意義を知らせたりして活動を盛り上げた。</p> <p>(3) 活動内容の報告</p> <p>活動の内容を全校児童に伝えるため、掲示物を作成した。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>今年度は5年生で福祉実践教室を行った。講師の先生方の貴重な話を聞き、普段できない体験ができたことで、社会の中で自分たちには何ができるかを考えるよい機会となった。今後もこうした体験活動を大切にしながら、福祉に対する児童の理解をさらに深めていきたい。さらに、自分たちにできることを実行していく場を設け、実践力を育てていきたい。</p>			
			「車いす体験」の様子
			「ガイドヘルプ体験」の様子
			児童集会の様子
			掲示物

令和5年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立丹陽西小学校	学校No.	12
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>(1) 目標 様々な障がいのある方の気持ちや苦勞を理解するとともに、人に対する思いやりの心を育てる</p> <p>(2) 計画 5年生 : 福祉についての調べ学習(5・6月) 福祉実践教室(5月) 全 校 : 緑の募金(5月) 赤い羽根募金(11・12月) あいさつ運動(通年)</p> <p>(3) 推進体制 5年生は総合的な学習の時間において、全校活動は児童会・委員会活動において推進する。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1) 福祉についての調べ学習 総合的な学習の時間に、副読本「ともに生きる」やインターネット、書籍を活用して、福祉についての調べ学習に取り組み、調べたことを報告文にまとめた。 (5・6月)</p> <p>(2) 福祉実践教室 車いす、手話、点字、ガイドヘルプの体験を行い、障がいのある方への理解を深める活動に取り組んだ。(5月)</p> <p>(3) 緑の募金 緑化委員会が中心となって、緑の募金に取り組み、募金活動の意義を啓発した。 (5月)</p> <p>(4) 赤い羽根募金 児童会・代表委員会が中心となって、赤い羽根募金に取り組み、募金活動の意義を啓発した。 (11・12月)</p> <p>(5) あいさつ運動 毎月第3月曜日が「あいさつデー」となっており、学校と保護者、地域が一体となって、あいさつ運動に取り組んだ。(通年)</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>福祉についての調べ学習や福祉実践教室を通して、障がいのある方への理解を深めることができた。体験的に学んだことにより、様々な人の立場に立って物事を考えることや個性を認めることの大切さに気づくことができた。学習後の振り返りでは、人のために自分ができることをしたい、みんなが過ごしやすい町をつくりたいと記述した児童が多くいた。また、募金活動やあいさつ運動を通して、主体的に行動していくことのよさを学ぶことができた。実践的な力を育成するため、今回のような学びの場を、継続的に設定していくことが必要である。</p>			

令和5年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立丹陽南小学校	学校No.	13
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>本校は、「みんなそれぞれ にとっておきの一人」を指導の基本理念として教育活動を進めている。一人一人がかげがえのない存在であり、互いに尊重し合うことの大切さを学ぶことができるよう、様々な活動に取り組んでいる。本校では、地域の方に見守り隊、学習支援ボランティアとして多く関わっていただいている。この地域との関わりが、福祉の面で大変有効であり、子どもたちの成長に大きな役割を担っている。また、障害のある状態を体験することで、思いやりの心が育まれていくと考えた。そこで、実践にあたっては、次に掲げることを目標として活動を計画した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>目標 高齢者、障害のある人や、地域の方々との関わりを通して、思いやりの心を育むとともに、相手を尊重する態度を育てる。</p> </div> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>①体験</p> <p>高齢者疑似体験では、視野を狭くするゴーグルをつけて杖をつき、おもり入りのベルトを身に付け体育館を歩く体験をした。ガイドヘルプでは、タオルで目を隠した児童を補助しながら校舎内の階段や障害物が置いてある廊下を歩いた。</p> <p>点字体験では、点字の歴史や点字の読み方、打ち方を学んだ後、実際に自分の名前を点字で打つという体験をした。</p> <p>以下、児童が書いた感想である。</p> <p>～児童の感想～</p> <p>高齢者疑似体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験をしてみて、お年寄りが大変な思いをしていると知った。おじいちゃんやおばあちゃんを助けてあげたいと思った。 ・装具を付けると足が曲げにくくて、階段を降りる時はとても恐怖心があり、大変だと思った。 <p>ガイドヘルプ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階段が1番怖くて、ヘルパー役の友達がいるととても安心した。 ・物の位置が分からないので、声かけが1番大事だと分かった。 <p>点字体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点字を打ったり読んだりするのは難しいと思った。 ・点字や点字ブロックで言葉や行く方向をつたえることができ、すごいと思った。 <p>②地域の方との繋がりを深める取り組み</p> <p>地域の方々には「見守り隊」として、毎日、児童の登下校の様子を見守っていただくとともに、クラブ活動では「グラウンドゴルフ、茶道、囲碁・将棋」の指導にも携わっていただいている。児童も地域の中で多くの方に見守られていることを日々実感している。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>福祉実践教室では、全体講義や各体験を通して、講師の先生方の思いを強く感じ、困っている人がいたら自分たちに何ができるかを考えることができた。また、地域のボランティアの方とのふれあいの中で、地域の方々に見守られていることを実感した児童は、低学年に優しく声をかけたり、元気にあいさつしたりするなど自分の周りに対する思いやる姿が見られるようになっている。今後も、様々な場面で児童が主体的に学び、思いやりの心を育むことができるような活動を考えていきたい。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等にしてください。



令和5年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立浅井南小学校	学校No.	14
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>(1) 目 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の不自由な人の体験や募金活動を通して、障害のある人に対する理解を深める。 ・一人一人が大切にされているという実感をもたせるとともに、お互いに認め合える人間関係を作り、優しく思いやりのある豊かな心を育てる。 <p>(2) 計画・推進体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉実践教室の実施（5年） ・地域の方との交流活動（3～5年） ・オアシス運動（全学年） ・赤い羽根の募金（全学年） <p>(3) 推進体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3・5年生（総合的な学習の時間で実施） ・児童会・代表委員会 <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1) 福祉体験教室（5年）</p> <p>10月に、車いす・手話・点字・視覚障害者ガイドヘルプの体験活動に取り組んだ。「車いす体験」では、車いすの扱い方や介助の仕方を学ぶとともに、足の不自由な方が何に困っているのかなど、体験を通して知ることができた。「手話体験」では、簡単な手話の練習や、手話の他にも自分の気持ちを伝える方法がたくさんあることを学んだ。その中のいくつかの方法を実際に体験したが、それらは伝えるための単なるツールであり、一番大切なのは『伝えたいと思う気持ち』であることを学んだ。こうした体験を通して、障害を持っている方の苦勞や、自分にできる支援について考えることができた。</p>  <p>(2) 地域の方との交流活動（3～5年）</p> <p>3年生はJA浅井の方と『田んぼの生き物調査』を行った。毎年、調査を繰り返すことで、浅井町の環境が分かり、自然を大切にしていこうとする気持ちを高めることができた。4・5年生は、地元の方から『菊作り』について話を聞いた。長年続けられている理由や菊花大会で入賞したときの喜びなど聞き、地域の方と交流することで地域の人々や文化を大切にしようとする気持ちを高めることができた。</p>  <p>(3) オアシス運動</p> <p>心にオアシス(思いやり・あたたかい・親切な・素直な気持ち)を合言葉に、クラスの子だけでなく、ペア学年でペアになった子の「よいところ」をカードに書いて伝え合った。運動会やペア交流活動など、学校行事の後にもオアシスカードを書いた。各クラスの廊下には掲示板を設置し、だれでも見られるようにした。自他のよさを見つけ合い、認め合う場を位置付けることで思いやりの気持ちや自身の成長などが感じられた。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>活動を通して、体の不自由な人についての理解を深めたり、地域の文化を大切にしていこうという気持ちを高めたりすることができた。オアシス運動では、自己肯定感が高まり優しく思いやりのある豊かな心を育てることができた。しかし、児童が自ら進んで地域の活動やボランティア活動に参加するまでには至っていない。今後も福祉に関する体験活動や、地域の一員である自覚を高める体験活動、交流活動を進め、さらに優しく思いやりのある豊かな心を育んでいきたい。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和5年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立浅井北小学校	学校 No.	15
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>(1) 目標 高齢者や障害のある方との交流を通して、お互いのよさを認め合い、心豊かな生活ができるようにする。</p> <p>(2) 計画 ・福祉実践教室を通して、障害のある方と交流し、体の不自由な人の大変さを知る。 ・老人福祉施設「ウエルコートみづほ」を訪問し、高齢者の方たちと交流する。</p> <p>(3) 推進体制 学校運営機構に、人権・福祉教育部を組織し、全校体制で取り組む。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1) 福祉実践教室（5月） 福祉実践教室を通して、障害のある方と交流したり、車いす体験やガイドヘルプ体験をしたりすることで、体の不自由な人の大変さについて考えることができた。</p>  <p>(2) 老人福祉施設との交流（通年） 老人福祉施設「ウエルコートみづほ」に訪問し、高齢者の方たちと交流する活動を通して、人を思いやる心、いたわる心などを捉えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年…学校行事の思い出や、今学校でがんばっていることなど、高齢者の方たちへのメッセージを書いてプレゼントした。また、お年寄りの方々に元気であっていただけるよう思いを込めて、歌(1年生)を披露した。 ・中学年…健康を気遣うメッセージを添えたしおりを作成してプレゼントした。また、お年寄りの方々に元気であっていただけるよう思いを込めて、歌(4年生)やリコーダー演奏(3年)を披露した。児童が準備してきたゲームなどの遊びを各グループに分かれて行う形で交流も行った。 ・高学年…お年寄りの方々に元気であっていただけるよう思いを込めて、歌とリコーダーを演奏した。  <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉実践教室や老人福祉施設との交流(訪問)を通して、体の不自由な人や、お年寄りの苦労や大変さについて考えるきっかけとすることができた。また、弱い立場の人たちへの配慮が必要であることに気付き、ボランティアへの関心を高めることができた。 ・福祉活動で学んだ思いやりの心やいたわる心を、普段の生活の中で生かせるように、今後も継続して取り組んでいきたい。 			